

文献資料紹介 第2回
 三国名勝図会



三国名勝図會

十七



お 雄 秀 本 山
 ひで 秀 本 山
 もと 秀 本 山
 やま 秀 本 山

今回『三国名勝図会』の中から巻之五十『屋久島』を取り上げることにした。

昭和五十七年十一月十八日付『南日本新聞』に熊本青潮社から、『三国名勝図会』の復刻本が刊行されるに当たって、詳細な紹介記事が掲載されたし、又現物によってその内容は大方ご存知のことと思うが、ここにその記事を抄出すれば、

『三国名勝図会』は薩摩第二十七代藩主島津斉興の下令で、天保十四年（一八四三）に五代秀堯・橋口兼柄等によって編さんされた全六十巻の歴史・地理書で、薩摩・大隅および日向の一部にわたる三国の自然・社寺・物産などについて記述している本であって、薩摩藩の研究書として最も権威ある書物であると記されている。

そこで明治三十八年島津家臨時編輯所発行の同書、巻之五十『屋久島』の目次を紹介したい。

三国名勝図会巻之五十目録

大隅国馭謨郡

屋久島

総説

① 島名の諸字

② 郡の分合

③ 授位賜物

④ 郡司及制外

山 水

① 八重岳

② 宮之浦

③ 宮之浦川

④ 宮之浦岳(益敷神祠)

⑤ 御船岳

⑥ 刀折岳

⑦ 羽神瀑布

⑧ 危石

⑨ 銭亀石

⑩ 碁石ヶ浦

⑪ 安房川

⑫ 天柱石

⑬ 天柱岳

⑭ 面影水

⑮ 用水川

⑯ 尾之間温泉

⑰ 平内温泉

⑱ 花の江川

⑲ 栗生川

⑳ 栗生岳(益敷神祠)

⑳ 珊瑚沙渚

㉑ 長田川

㉒ 長田岳(益敷神祠)

㉓ 一湊(一湊川)

㉔ 箭筈山(八幡窟)

㉕ 六港

㉖ 長田岳(益敷神祠)

㉗ 永良部

① 切渡橋

橋 道

神 社

① 益救神社

② 盛久権現社

③ 天満神社

④ 神社合記

明儀神社・住吉神社・八幡神社
 葉山神社・中島権現祠

佛 寺

* 閩島II全島
 間はすべて、
 みんなのこら
 ずの意。

※権輿Ⅱ物事のはじめ、おこり

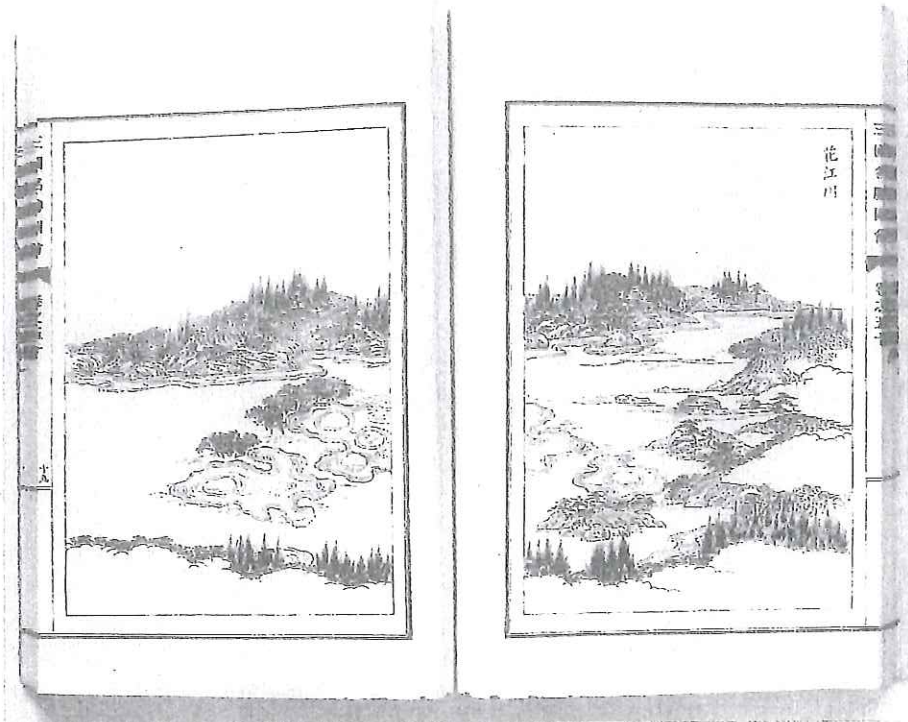
- ①法華宗の権輿ほっけしゅう*けんよ
- ②久本寺くほんじ（番神堂）
- ③釈迦堂しゃかどう
- ④佛寺合記ぶつじ

物産

- ①土石類
- ②五穀類ごこく
- ③薬品類
- ④蔬菜類そさい
- ⑤果実類
- ⑥花卉類かき
- ⑦樹木類
- ⑧飛禽類ひきん
- ⑨走獸類そうじゅう
- ⑩鱗介類りんかい

- ①古城合記
- ②如竹翁墓じょちくおう（如竹翁遺文・如竹翁詩）
潘相の書翰・如竹翁伝
- ③羅馬国人の事蹟ローマこくじん

旧跡



▲『三国名勝図会』さしえ 花の江川

①遣唐使漂着けんとうしひょうちやく 叢談*そうだん

以上が巻之五十の『屋久島』についての目次である。『三国名勝図会』が薩摩藩の研究書として、権威ある書物であるというは、事実『屋久島』を八つの項目に分け、更にそれぞれを細目にした目次を見ると、身近においてくり返し読むにふさわしい郷土史であるをうかがい知られよう。巻五十は目次が三頁、本文が九十二頁からなっている。ここに前文の『屋久島』の項を記せば

大隅国、おおすのくに 馭護郡ごむぐん。

和命鈔わみょうしやう、馭護ごむ、五牟ごむ、俗に或は駒路こまじというは、熊毛くまげの訛なまりなり、熊毛くまげは今の種子島たねがしまの郡名にて、猶なほその古昔ふるきむかしの事は、下条、郡の分合、及び種子島たねのくにの巻、多櫛国たねのくにの条に併せ考ふべし。

屋久島

本府の西南、四十八里にあり、島治は宮之浦村にあり、この地山川港に近き故なり、本府島字を置き、毎年渡海交代す、本村四ツ、吉田村・栗生村・長田村・永良部村是なり、吉田村の属村七ツ、宮之浦村・一湊村・志戸子村・楠川村・小瀬田村・安房村是なり。栗生村の属村九ツ、麦生村・原村・尾之間村・小島村・恋泊村・権野村・平内村・湯泊村・中間村是なり。長田村と永良部村とは、属村なし、凡他の郷邑きょういは地頭館ぢとうかんよりの方程を以て記すといえども、此島は方程を以て載のせがたし、山水、橋道、神社、佛寺等の所在、島民毎に属村を以て呼ぶ、故に各所皆属村を以て是を記す。本村は分界あわい或は広くして泛濫*はんらんたれども、属村は然らざるを以てなり、因て属村の名をここに挙ぐ。

——本文の導入部である。

※叢談Ⅱ種々の物語をあつめたもの

*郷邑Ⅱむらざと

*方程Ⅱ方角とみちのり

*泛濫Ⅱ広くあふれること